



体験！「まちづくりワークショップ」

～「(仮称)札幌市市民まちづくり活動促進基本計画」
を一緒に考えてみませんか～

報告書



平成 20 年 9 月 27 日(土)開催

1. 開催概要

- 日 時：平成 20 年 9 月 27 日（土）13：00～16：00
- 場 所：札幌エルプラザ公共施設 2 階 第 3・4 研修室
- 参加者：14 名
- 目的：市民まちづくり活動促進基本計画の概要について、ワークショップ形式で、議論し意見を出し合いながら、出された意見を計画策定の参考にするとともに、一人ひとりがまちづくりについて改めて考えるきっかけとしてもらう。
- 配布資料：プログラム
市民まちづくり活動促進基本計画に関する資料
アンケート用紙（参加者が記入後、回収）
パンフレット（市民まちづくり活動促進条例、さぼーとほっと基金 ほか）

2. プログラム

ワークショップの進行及び内容は以下のとおりです。

時 間	テーマ	内 容
13：00	主催者挨拶	市民活動促進担当課長の挨拶
	ワークショップの進め方の説明 (オリエンテーション)	ワークショップの趣旨、流れ、ねらい等についてガイダンス
13：05	基本計画に関する説明	今回の題材となる基本計画に関する概要の説明
13：35	質疑応答	
13：40	ワークショップ 「基本計画をもとにまちづくりについて考えてみよう」	・グループ内で自己紹介 ・グループごとに各テーマについて議論し、討議結果を項目ごとに整理し発表を行った。 ＜テーマ＞ ◆参加する市民に向けた施策 ◆活動する団体等に向けた施策 ◆団体間の連携促進に向けた施策
15：45	総括（まとめ）	
15：55	アンケートの記入	
16：00	終了	

全体ファシリテーター：市民活動協働推進担当課長 加納尚明

3. 参加者とグループ

参加者は、一般市民や町内会役員、NPO 会員、団体職員、会社員など 14 名が参加し、グループに分かれて議論しました。

ワークショップでは、まず、各グループがそれぞれのテーマについて議論、発表したのち、次に、テーマを変えて、前の議論で別なグループから出された意見をもとに、さらに議論を深めました。

参加者とグループ分け、ワークショップでのテーマは、以下のとおりです。

【A グループ】 4 名

参加者		グループ議論でのテーマ
一般市民	1 名	①参加する市民に向けた施策 ②活動する団体等に向けた施策
町内会役員	1 名	
団体職員	1 名	
会社員	1 名	

【B グループ】 5 名

参加者		グループ議論でのテーマ
一般市民	1 名	①活動する団体等に向けた施策 ②団体間の連携促進に向けた施策
町内会役員	1 名	
NPO 会員	1 名	
団体職員	1 名	
会社員	1 名	

【C グループ】 5 名

参加者		グループ議論でのテーマ
一般市民	1 名	①団体間の連携促進に向けた施策 ②参加する市民に向けた施策
NPO 会員	3 名	
団体職員	1 名	



A グループの議論の様子



B グループの議論の様子



C グループの議論の様子

4. 議論の結果・まとめ

【テーマ：参加する市民に向けた施策】

■当事者意識の啓発

①課題の共有化

- ・地域において、どのようなことが不安、不満なのか？
- ・地域の不満や課題を共有化（形をつくる）するには、どうすればよいのか？



- ・地域、ご近所の底力が必要である。
- ・地域内の人的交流の提案を行う。
- ・地域内の高齢者向け話し合いの場をつくる。
- ・地域内のイベントへの参加による交流を促進させる。
- ・地域内において安心安全に子供達が登下校・帰宅後の遊びが出来るように見守り活動を行う。
- ・地域の「〇〇活動」に積極的に参加するような提案活動を行う。



②まちづくりへの参加のメリットの提示

- ・参加することの利益（メリット）を市民に知らせる。
- ・参加したことで得た利益（メリット）を、ポイント制や賞などで広く市民に知らせる。
- ・参加した利益（メリット）を交換するなどの場を設ける

■まちづくり活動の支援体制の整備

①情報発信

- ・ボランティアの祭（バザーなど）で広く市民に知らせる。
- ・イベントなどを通じて、参加できる活動内容を知らせる。
- ・昼のワイドショーでボランティアを紹介する。
- ・きっかけ作りの講座をする。
- ・成功例を他地域へ発信する。

②活動しやすい環境づくり

○行政による活動環境づくり

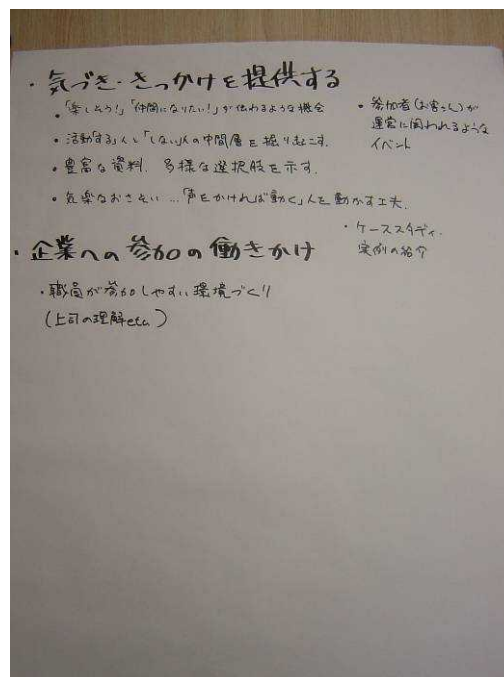
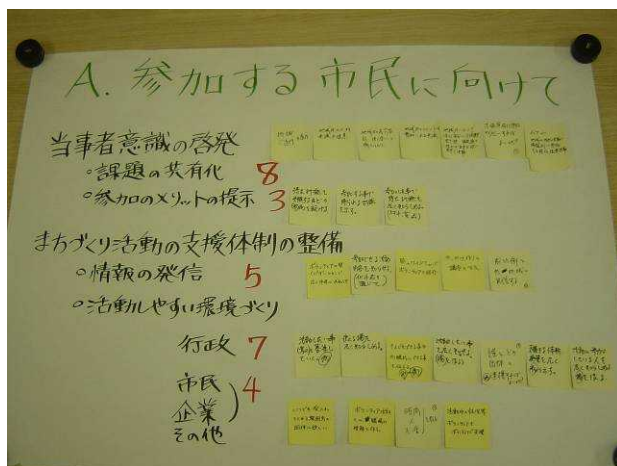
- ・市民のまちづくりとして活動したいことや考えを募集していく。
- ・まちづくり活動に使える場を広く知らせる。
- ・1人でも出来るまちづくり活動や、内職的にできるまちづくり活動を市民に伝える。
- ・市民の活動したいことを広く知らせ、活動の場をつくる。
- ・誰と、どの団体が連携すればよいかを考える。
- ・市民のまちづくり活動を支援する体制や施策を広く市から示す。
- ・活動に参加している人を広く知らせる。

○市民・企業・その他での活動環境づくり

- ・いつでも受け入れてくれる雰囲気をつくる。
- ・ボランティア活動への職場の理解をつくる。
- ・まちづくり活動に関わる「時間」や「人」、「お金」を考える。
- ・まちづくり活動中の託児など、ボランティアの人をボランティアで支援する。
- ・企業へのまちづくりに対する参加の働きかけを行う。
- ・上司の理解など、職員がまちづくり活動に参加しやすい環境をつくる。

■まちづくりへの気づきやきっかけの提供

- ・市民に「楽しそう!」「仲間になりたい!」という気持ちが伝わるような機会を提供する。
- ・活動する人と、活動しない人の中間層を掘り起こす。
- ・豊富な資料の提供により、まちづくり活動の多様な選択肢を示す。
- ・声をかければ動く人がいるので、まちづくりへの気楽なお誘いなど人を動かす工夫をする。
- ・まちづくり活動のケーススタディの例を紹介する。



【テーマ：参加する団体に向けた施策】

■お互いの活動の情報交換

- ・団体の活動をお互いに知らせる。
- ・自分たちのやっている活動を広く知ってもらおう。
- ・団体の必要な内容を知る。
- ・まちづくりに関心のない人々を取り込む。
- ・団体の連携のあり方を考える。
- ・団体間の人的な交流を組織化する。
- ・行政が、まちづくり団体の成功事例を広報・紹介して、団体のモチベーションをUPさせる。
- ・団体の組織の営利活動を理解する。
- ・インターメディアや中間支援 NPO、交流イベントによる協働が必要である。



■活動スペースの確保・提供

- ・町内会も NPO も活動スペースを求めている。
- ・事務所や拠点、倉庫、空き教室などを活動スペースとして使えるようにする。
- ・団体の備品を置いておける倉庫スペースを確保・提供する。
- ・アウ・クルのような安い家賃の事務所スペースを各区に確保する。
- ・行政の遊休施設について、情報を一本化して公開する。

■専門的な相談場所や人の設置

- ・活動のサポートができる相談員をたくさん設置する。
- ・経理、法務などの専門知識の持ち主がいないので、相談できる専門的サポート体制をつくる。

■行政の縦割りを排除

- ・行政の規制緩和により、団体がやりたくても規制があって出来ないという障害をなくす。
- ・担当別に話を通すことが大変なので、各課のコーディネートする職員を設置する。
- ・行政は団体を通して市民の意見を聞くので、団体や市民の意見をきちんと聞き入れる。

■備品の利用、確保

- ・まちづくりセンターの備品を NPO も使えるようにする。
- ・行政や企業のいらぬ備品をもらえる仕組みをサポートセンターでつくる。

■広報活動の強化

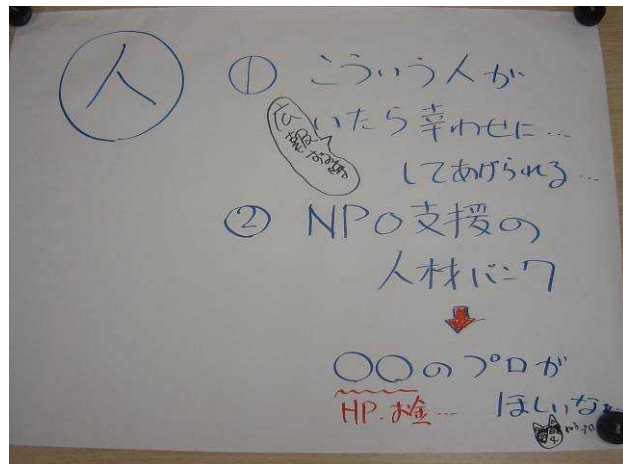
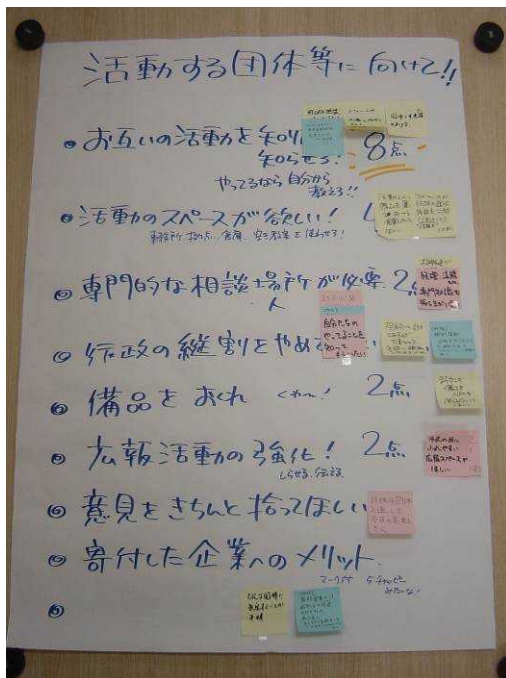
- ・まちづくりに関する広報を強化し、市民や団体に知らせる、伝える。
- ・団体の活動を知ってもらうため、市民の目にふれやすい広報スペースを設ける。
- ・団体は、自己満足にならないよう市民の視点に立つ。

■協力企業へのメリット

- ・寄付企業には税制上の優遇だけでなく、商品等へまちづくり支援マーク＝エコマークみたいなものをつけて、寄付した企業へのメリットを示す。
- ・企業がどんな団体に寄付しているのかわかるようにする。

■団体の人材の確保

- ・団体について広報するときには、「こういう人がいたら、幸せにしてあげる」と人材を求める。
- ・ホームページや経理の専門家など、NPOを支援する支援の人材バンクをつくる。



【テーマ：団体間の連携促進に向けた施策】

■連携ってなんだ？

- ・ どのような時に連携していると思うか、感じるか。
- ・ 連携と言いながら、話しているヒマがあったら仕事したほうがよい。
- ・ 連携は、誰かに促進してもらうものなのか。
- ・ 連携するうえで、仲良くするにはどうするのか。



■団体間の連携を生み出す方法

①企業とNPO等の交流機会

- ・ 企業とNPOとのお見合いイベント（パーティなど）を行う。
- ・ まちづくり団体が参加する交流会を開催する（異業種交流会のようなパーティ的な交流会）。

②団体を紹介する窓口の設置

- ・ 団体を紹介する橋渡しの窓口をつくる。
- ・ 団体間の連携の音頭をとる人が必要である。
- ・ 団体に関する情報を開示する。
- ・ 自分が調べなければ集められないという方法ではなく、市が常にアンテナをはって団体間同士の縁結び的な活動を意識して行う。
- ・ 市に限らず、縁結び的な活動をする組織をつくる。

③団体間の紹介・提示

- ・ どのような団体があるのかがわかるように、団体リストをつくる。
- ・ 団体を紹介するイベントを開催する。
- ・ 団体の集まりやイベント、仕事、食事、飲み会など、様々な場や機会を使って、団体の紹介をする。
- ・ 団体間の交流の手段としては、電話やFAX、メール、直接などがある。

④具体的活動情報の共有化

- ・ 団体の具体的な活動の情報を共有できるようにする。

⑤団体の活動内容の紹介

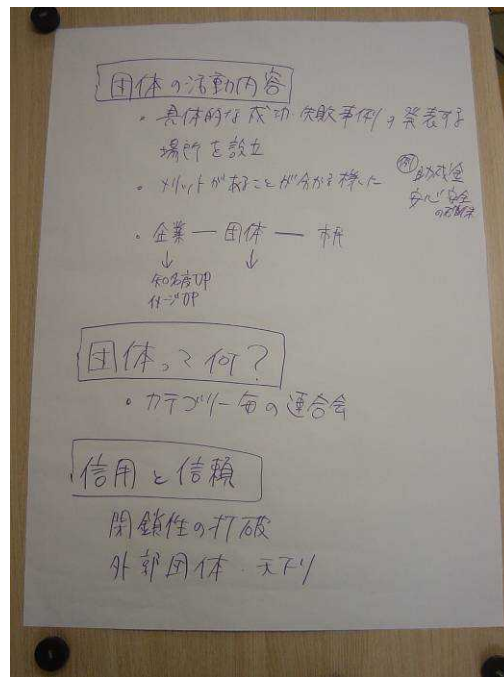
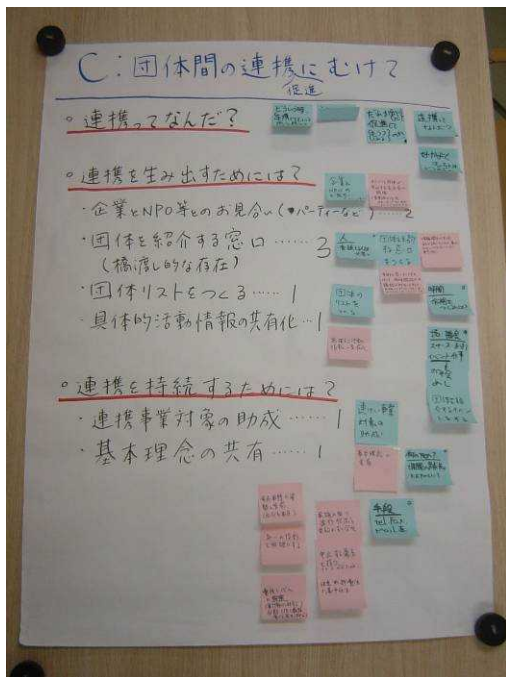
- ・ 団体活動の具体的な成功・失敗事例を発表する場所を設置する。
- ・ 補助金や安心安全の確保など、活動のメリットがあることが分かるようにする。
- ・ 企業のメリットとしては、知名度やイメージのUPがある。

■連携を持続するための方法

- ・連携事業対象の助成
- ・課題の解決や楽しみなど、何のためにやっているのか、理念を共有する。

■その他

- ・実行動に対する責任レベルを分散させる。
- ・団体に所属する人も市民であるので、市民目線の姿勢を共有することが重要である。
- ・お互いの役割を明確にする
- ・実施にあたり進行状況と目的のすりあわせを行う。
- ・中止する勇気を持つ。メリット、デメリット効果の基準統一を図る。
- ・団体とは、カテゴリー毎の連合会である。
- ・連携促進のためには、閉鎖性を打破し信用と信頼をつくることが重要である。



5. 基本計画を広げるためのアイデア

グループでの議論の後には、参加者全員及びファシリテーターにより、基本計画を市民に広めるためのアイデアについて出しました。

■メディア等を活用したPR

- ・ 北海道新聞が、基本計画をテーマに連載する。
- ・ FM アップルで放送する。
- ・ 民放テレビが夕方の番組で、必ずまちづくりコーナーをつくり放送する。
- ・ ジョニー・デップがテレビで一週間 PR する。
- ・ さくらももこに4コマ漫画で基本計画に関して書いてもらう。
- ・ どさんこワイドでPRする。
- ・ UHBなどのテレビ局から、市役所タイムを買って放送する。
- ・ 日ハム戦に札幌ドームのオーロラビジョンでPRする。
- ・ 札幌のフリーペーパーに載せる。
- ・ 活動団体の広報誌に掲載する。
- ・ 団体情報の広報誌に載せる。
- ・ スーパーに掲示する。
- ・ コミック版をつくる。
- ・ 子どもや孫に、「いろはカルタ」をつくる。
- ・ 応援ソングをつくってもらう。
- ・ 映画化する。
- ・ 芸人が基本計画をネタに大喜利する。

■行政によるPR

- ・ 行政が基本計画について広報さっぽろに載せる。
- ・ 基本計画の情報を町内会にPRする。
- ・ “条例できました”Tシャツをつくり、それを着てPRする。
- ・ 市役所の人全員が“条例できました”缶バッジをつける。
- ・ 市民憲章のようなもの（短い文章）をつくる。
- ・ 伝えやすい冊子を作る。
- ・ 上田市長が、全世帯にPRする。
- ・ 市の担当者全員が基本計画について説明できるようにする。
- ・ キャッチコピーを市民に募集する。
- ・ 10月5日のまちづくりフェスタで加納課長が発表する。
- ・ 基本計画に関するクイズをつくる。
- ・ 区長が発表する。
- ・ 基本計画を使った好事例をつくってPRする。
- ・ ホームページでPRする。

■□コミでのPR

- ・ 市民団体に行って説明する。
- ・ 知らない人に伝える
- ・ 自分が親に伝える。
- ・ 女性の集まる場所で広く広報する。
- ・ 友達に伝える。
- ・ 家族に話す。
- ・ 学校で子どもたちに教える。
- ・ 友達とお酒を飲みながら伝える。

■その他

- ・ わかりやすい伝え方をする。
- ・ あなたがさっぽろを変える。
- ・ 三國シェフに市民活動をテーマに創作料理をつくってもらう。
- ・ このような場をまた継続する。
- ・ 企業の協力によりPRする。

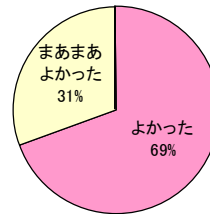


6. ワークショップに関するアンケート結果（13名が回答）

質問1 このワークショップに参加してどうでしたか。（○は一つ）

【結果】 今回のワークショップについて、「よかった」が9名、「まあまあよかった」が4名となり、全ての参加者から良い評価を得ています。

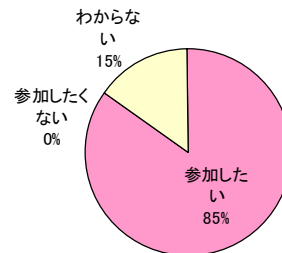
	回答者数
1 よかった	9
2 まあまあよかった	4
3 どちらともいえない	0
4 あまりよくなかった	0
5 よくなかった	0
合計	13



質問2 あなたは、このようなまちづくりに関するワークショップや講座・研修会があれば、また参加したいですか。（○は一つ）

【結果】 まちづくりに関するワークショップなどの今後の参加について、2名を除き、「参加したい」となっており、参加への関心や意欲が高い。

	回答者数
1 参加したい	11
2 参加したくない	0
3 わからない	2
合計	13



質問3 本日のワークショップに参加して、どのような意見や感想を持ちましたか。自由に記載してください。

【結果】 自由意見では、今回のワークショップに関して、主に以下のような意見が出されています（具体的な回答内容は、次ページ）。

- ・ワークショップへの市民の参加拡大、参加の呼びかけについて
- ・ワークショップの運営について
- ・様々な立場や意見の交換、交流の場としての評価について など

■具体的な回答（全回答）

もっと町内会の方に参加してほしかった。どうしても市民活動=NPO という感覚が強すぎる。（ファシリテーターもそういう感覚なので進める際には「NPO と町内会、自治会」という言葉を使ってほしい。）
町内会等の小さな組織団体の地道な運動に共感を覚えました。また、まだまだ札幌は捨てたもんじゃないですね！
自由に意見を和気あいあいのうちに出来たことは最高。
もう少しかたくるしいイメージを抱いていたので（すみません）とてもおもしろかったです。これがもっと市民レベルの人達が参加していたら良いのと思います。 町内会の方々にももっと積極的に参加を呼びかけてみたらいかがですか？
専門的な知識を持った方々が多かったので今度は本当の市民視点に立ったそこら辺に普通に暮らしているような人同士でやってみたいと思いました。
市民活動サポートセンターに勤務する立場上、非常に有意義であったと思います。NPO 法人の運営に携わる方、町内会の事務局長、ボランティア活動に関心のある一般の方とさまざまな視点からの意見を吸収することができました。
積極的な意見があり基本計画の関心の高さを感じました。
自分の視点だけでは見きれないことが人と話し書くことで見えるのが良かったです。 アウ・クルにいるのでまた来ます。
もう少し参加者があった方が良かったと思います。
NPO 活動されている方々向けの内容？と思いました。一般市民が身近なテーマで学べ意見が言える場が欲しいと思います。子育て中の方、高齢の方、それぞれに様々な思い考えを持っていると思います。
各年代の人との交流の場として良かった。 今後どんどん開催してほしい。 生の声を生かしてほしい。
3時間は長いと思っていたがあっという間でした。さらに幅広い層の方を集められるのもっといいですね。
進め方が上手でした！！

「体験！まちづくりワークショップ」報告書

平成 20 年 10 月発行

発行 札幌市市民まちづくり局市民自治推進室市民活動促進担当課

札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 TEL 011-211-2964

ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/shimin/support/>